【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成30年10月18日(2018.10.18)

【公開番号】特開2018-93844(P2018-93844A)
【公開日】平成30年6月21日(2018.6.21)
【年通号数】公開・登録公報2018-023
【出願番号】特願2016-256810(P2016-256810)
【国際特許分類】
Ａ０１Ｋ　83/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ０１Ｋ　83/00　　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成30年8月8日(2018.8.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
アイを形成するための環部を端部に有する軸部材と，前記軸部材とは別体のフックとからなり，前記軸部材を構成する線材は前記フックを構成する線材よりも線径が小さく，前記軸部材と前記フックとをろう付けした，アイを有するつり針．
【請求項２】
前記環部は，前記軸部材を構成する線材を折り曲げて形成した２つの環を同心状に配置したものである請求項１のつり針．
【請求項３】
前記軸部材の前記環部以外の部分は，互いに平行な複数の直線部で構成されている請求項２のつり針．
【請求項４】
前記環部は，前記直線部の両端に形成した環を，前記直線部を二つ折りにすることによって同心状に配置したものである請求項３のつり針．
【請求項５】
前記軸部材の前記環部を第一の環部とし，第一の環部とは反対側の端部に第二の環部を設けた請求項１から４のいずれか１項のつり針．
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２１】
図１に示すトリプルフックは，軸部材２０と３本のフック１０が構成要素となっている．そして，フック１０を構成する線材と軸部材２０を構成する線材とは別体で，かつ，後者の線径は前者の線径よりも小さい．ここでは円形断面の線材を使用する場合を想定して「線径」という用語を用いたが，すでに述べたとおり，線材の断面形状は必ずしも円形である必要はない．また，フック１０を構成する線材と軸部材２０を構成する線材とが同じ断面形状である必要もない．
【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２８】
図５は，図４に示した軸部材２０の製造過程を例示したものである．すなわち，直線部２２の両端に，巻きの向きを互いに逆にした環部２４を形成し（図５（Ａ）），直線部２２の中央付近で折り曲げることにより環部２４同士を同心状となす（図５（Ｂ）（Ｃ））．この場合，図３の実施例のように線材を２重巻きにする場合に比べて次のような利点がある．２重巻きにした場合，環部２４に心ずれが生じやすいという問題があるのに対し，この実施例では環部２４どうしを密着させることができる．なお，環部２４どうしをろう材で結合するようにしてもよい．また，２重巻きにした場合，述べたように環部２４に心ずれが生じやすい結果，直線部２２どうしが離れてすきまが生じやすいといった問題もある．